

# 20年セ試確定志願者数は 54万3,382人で、2年ぶりの減少！

現役は3年ぶり、浪人は5年連続で減少。現役志願率は過去最高の39.2%

旺文社 教育情報センター 19年11月

大学入試センターはこの程、20年1月19・20日に実施される20年センター試験の確定志願者数を発表した。志願者数は54万3,382人で、19年より9,970人(1.8%)減り、2年ぶりの減少となった。現役は3年ぶり、女子は2年ぶりに減少した。浪人と男子は5年連続の減少。都道府県別では、増加は秋田・長野・大分など6都道県に留まり、軒並み減少している。特に、愛知・神奈川・大阪・兵庫・千葉といった都市部を含む28府県では、全国平均の減少率1.8%を上回っている。現役志願率39.2%は、過去最高を更新。

なお、リスニングテストにおけるイヤホン不適合者は、2,553人(全志願者数の0.5%)だった。

●志願者数 543,382人(553,352人；9,970人減、1.8%減)

<内 訳>

○高校等卒業見込者 428,012人(434,316人；6,304人減、1.5%減)

○高校等卒業生 108,666人(112,728人；4,062人減、3.6%減)

○高認・その他 6,704人(6,308人；396人増、6.3%増)

○現役志願率 39.2%(37.8%；1.4ポイント増)

○男女別

① 男子 315,647人<58.1%>(322,166人<58.2%>)

② 女子 227,735人<41.9%>(231,186人<41.8%>)

○都道府県別(出身高校等別による)

① 志願者数が増加した都道県

秋田(1.3%増)／長野(0.8%増)／大分(0.8%増)／鹿児島(0.4%増)／東京(0.3%増)／北海道(0.3%増)

② 志願者数の減少率が全国平均を下回った県

岐阜(0.2%減)／沖縄(0.2%減)／熊本(0.4%減)／茨城(0.4%減)等、13県

③ 志願者数の減少率が全国平均を上回った府県

高知(6.4%減)／静岡(5.4%減)／富山(5.2%減)／滋賀(5.0%減)等、28府県

④ 現役志願率の高い主な都県

富山(51.0%)／広島(48.7%)／愛知(48.5%)／東京(46.9%)／石川(45.7%)／山梨(45.5%)／福井(44.9%)／島根(43.7%)／群馬(43.4%)、等

○成績開示希望別

① 開示希望者 385,573人<71.0%>／② 開示を希望しない者 157,809人<29.0%>

注1. 都道府県別を除く( )内は、19年データ及び19年対比の増減、等。

注2. < >内は構成比率。

注3. 「高認」は高等学校卒業程度認定試験の略。

## 【特記】

### ① 志願者数

20年の18歳人口・高卒者数はここ数年の2～3%程度の減少から、一気に5%近い減少が予測されている。

そうした中、志願者数は前年比1.8%減に留まり、54万3,382人となった。

### ② 減少率が小幅に留まった主な要因

現役の大学進学率アップが見込まれている中で、私立大のセンター試験参加増(17大学44学部増の467大学1,287学部)と短大の参加増(8短大増の156短大)に加え、国公立大のセンター試験“多数科目負担”を敬遠し、少数科目の私立大センター試験利用入試へ流れる“現役志願者層”の拡大。

推薦・AO入試などで年内に大学進学を決めてしまう“早期受験組み”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、センター試験を活用。

普通科での高い進学率(19年卒業者の大学等進学率60.0%)に加え、専門学科や総合学科でも大学等への進学率が高まっている。

### ③ 高校等卒業見込者(現役)、浪人の志願者数

現役は18・19年と2年連続増加したが、3年ぶりの減少に転じた。ただ、過去最高の現役志願率に支えられ、減少率は1.5%に留まり、現役志願者数は42万8,012人だった。

一方、浪人は16年以降、5年連続の減少で、10万8,666人(前年比3.6%減)。2年前の18年は、新課程入試を敬遠して17年に浪人を回避したことなどから、前年比15.8%の大幅な減少であったが、今後は4～5%程度の減少率で推移するとみられる。

### ④ 高校の学科別でみた出願状況

志願者のほとんどを占める普通科(志願者の構成比率92.6%)で志願者減となっているが、進学率の高い理数科(同2.0%)や総合学科(同1.5%)などで増加している。高校の多様化が進む中、センター試験志願者層の裾野が拡大していることをうかがわせる。

### ⑤ 都道府県別でみた主な出願状況

\* 志願者数：東京が6万1,041人で突出しており、これに愛知(3万4,341人)、神奈川(3万976人)、大阪(2万9,249人)、埼玉(2万7,547人)、兵庫(2万4,397人)、千葉(2万3,145人)と、19年と同じ顔ぶれが続く。

志願者数の増加は全国47都道府県のうち、秋田(前年比1.3%増)、長野(同0.8%増)、大分(同0.8%増)、鹿児島(同0.4%増)、東京(同0.3%増)、北海道(同0.3%増)の、6都道県に留まる。

一方、愛知(同2.3%減)、神奈川(同2.9%減)、大阪(同1.9%減)、埼玉(同1.8%減)、兵庫(同2.1%減)、千葉(同2.7%減)など、例年志願者数の多い都市部での減少が目立つ。

\* 現役志願率：富山が51.0%で、5年連続の首位をキープ。これに広島(48.7%)、愛知(48.5%)、東京(46.9%)等、40%台の高率が18都県続く。

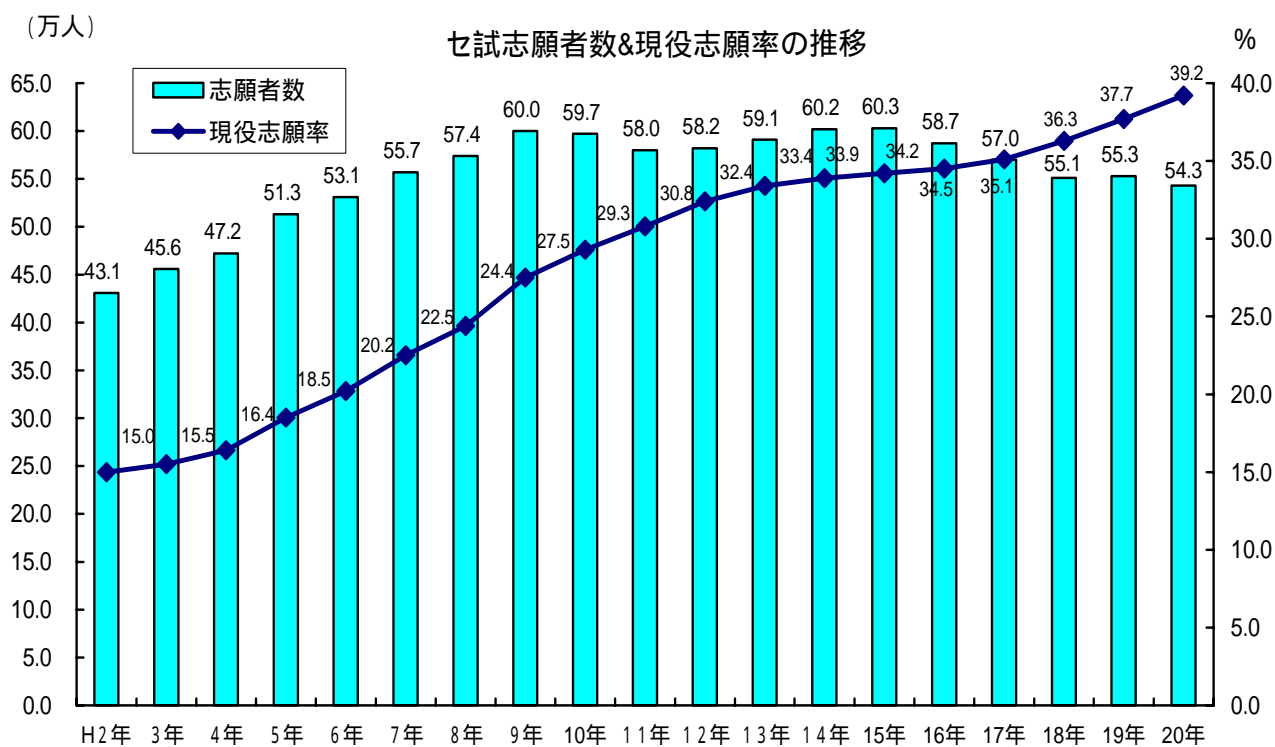
⑥ 試験成績の本人開示

14年より実施されている試験成績の本人開示(事後開示)については、開示希望者数が5,994人(1.5%)減り、38万5,573人(志願者の71.0%)となった。

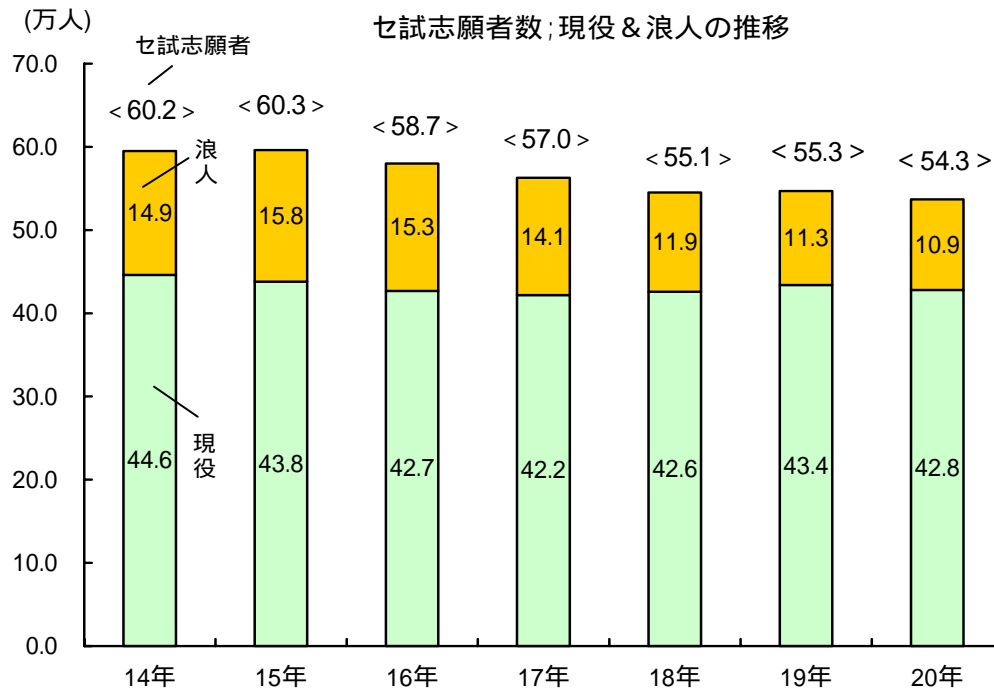
⑦ 英語リスニングテストに対する特別措置

身体障害者等に対する受験特別措置は、英語リスニングテストについても行われる。イヤホン不適合者は2,553人(前年1,844人)である。また、聴覚障害などで162人(前年191人)がリスニングテスト免除となる。

(図1)



(図 2)



注) 浪人には、検定(大検、高認)合格者等を含まない。

(大学・学部 / 短大)

(図 3)

